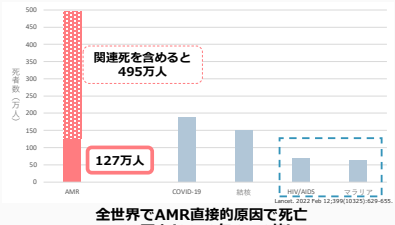
日本における薬剤耐性（AMR）対策

国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター
大曲 貴夫

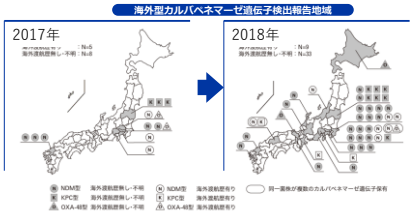
世界の現状（2019年AMR死亡）



Lancet. 2022 Feb 12;399(10325):629-655.

全世界でAMR直接的原因で死亡
127万人(2013年の1.8倍)

海外型カルバペネマーゼ遺伝子検出例による感染報告数が年々増加



IASR Vol. 40 p158-159:2019年9月号
https://www.niid.go.jp/niid/ja/cre-m/cre-sear/9125-475d82.html

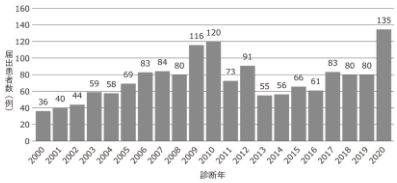
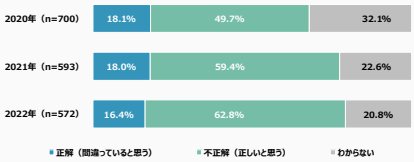


図1. 感染症発生動向調査におけるバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の年別届出患者数、2000～2020年（2021年1月25日時点）

IASR

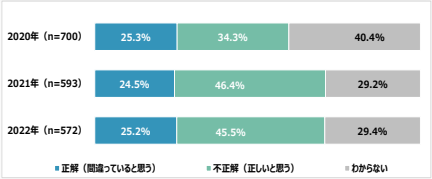
https://www.niid.go.jp/niid/images/iasr/2021/5/495p01f01.gif

抗菌薬・抗生物質はウイルスをやっつける



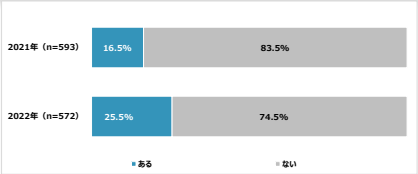
2020年、2021年との大きな差はなく、
正解の割合は低い水準のままであった

抗菌薬・抗生物質はかぜに効く



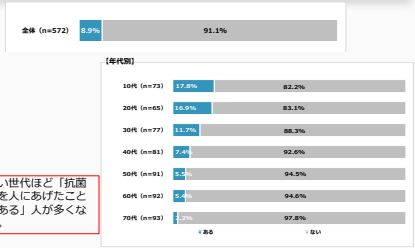
2020年、2021年との大きな差はなく、
正解の割合は低い水準のままであった

とっておいた抗菌薬・抗生物質を自分で飲んだことがある



昨年より9.0ポイント増加している

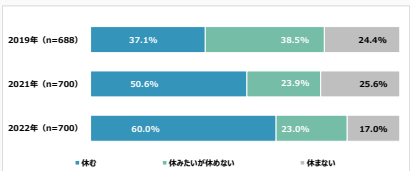
抗菌薬・抗生物質を人にあげたことがある



若い世代ほど「抗菌薬を人にあげたことがある」人が多くなる。

抗菌薬の不適切な使用が増加している可能性がある

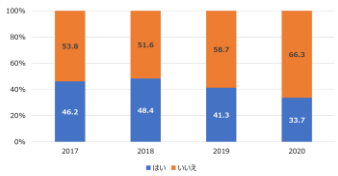
例えば今朝起きたら、だるくて鼻水、咳、のどの痛みがあり、熱を測ったら37度でした。あなたは学校や職場を休みますか



「休む」60.0%
結果的に「休まない・休めない」40.0%
「休む」人は2019年から約23ポイント増加

市民の受療行動には変化がある

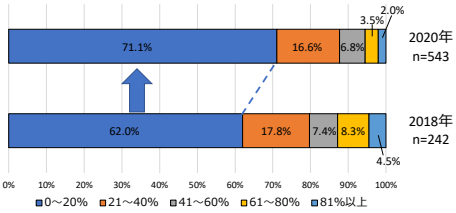
あなたは、この1年間で何らかの「抗菌薬」を服用しましたか



・抗菌薬を服用したと答えた人は少しずつ減少している。

10

感冒と診断したときに抗菌薬を処方した割合（過去1年間）

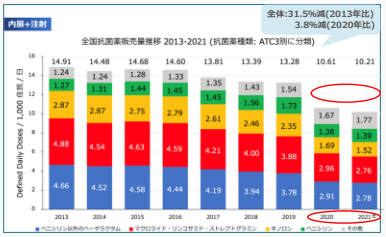


日本化学療法学会・日本感染症学会合同作来抗菌薬適正使用調査委員会
全国の診療所医師を対象とした市販薬適正使用に関するアンケート調査（第2回）

11

2022年度「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」キャンペーン

抗菌薬販売量2013-2021

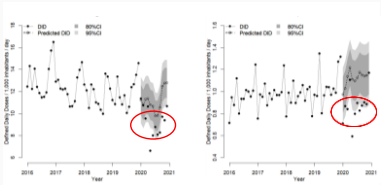


AMR臨床リファレンスセンター　ホームページ「サーベイランス> 全国抗菌薬販売量サーベイランス(一部改変)」より

抗菌薬販売量2013-2021

AMR臨床リファレンスセンター　ホームページ「サーベイランス> 全国抗菌薬販売量サーベイランス(一部改変)」より

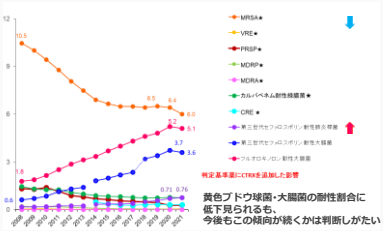
COVID-19の影響



2020年抗菌薬消費量の実測値は予測値を大きく下回った
(左図:経口薬、右図:注射薬)

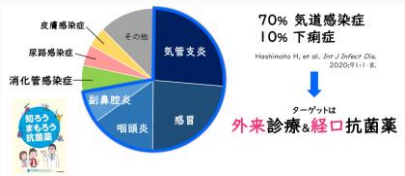
Ono et al. *Int J Infect Dis.* 2022 DOI: 10.1016/j.ijid.2022.03.019

JANIS全検体中の耐性菌検出割合(JANIS速報)



黄色ブドウ球菌・大腸菌の耐性割合に
低下見られるも、
今後もこの傾向が続くかは判断しがたい

本邦で抗菌薬が使用されている疾患



70% 気道感染症
10% 下痢症

Hashimoto H, et al. *Int J Infect Dis.* 2020;91:1-8.

ターゲットは
外来診療&経口抗菌薬

抗微生物薬適正使用の手引き

2017年6月

2019年12月
乳幼児編追加

風邪をひいたと訴えてきた患者を風邪と診断する手引き

《概要》
疾患定義・自然経過、治療のポイント、レッドフラッグ

成人・学童期以降の小児編
対象：基礎疾患なし
- 急性気道感染症
- 急性下痢症

乳幼児編
対象：基礎疾患なし、生後3カ月以降
- 急性気道感染症
- 急性下痢症
- 急性中耳炎

不必要使用への対策を推進していく

外来感染対策向上加算の新設及び感染防止対策加算の見直し

医療の質を地域単位で向上する

令和4年度診療報酬改定の概要個別改定事項1（感染症対策）
https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000911809.pdf

診療所における抗菌薬処方や傷病名の情報を可視化し、現状を把握し対策することで、抗菌薬適正使用を推進する

診療所版 J-SIPHE

OASCIS

Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics

10月3日(月) 運用開始

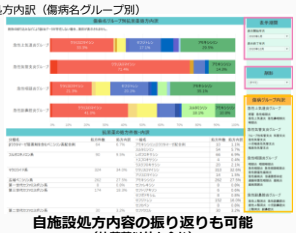
各施設のダッシュボード（気道感染症）

受診件数(月推移)
初診件数
抗菌薬処方率

自施設処方状況の振り返りが可能

各施設のダッシュボード（気道感染症）

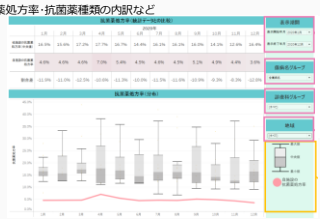
抗菌薬処方内訳（傷病名グループ別）



自施設処方内容の振り返りも可能
（抗菌薬以外も含む）

自施設と全施設全体との比較

抗菌薬処方率・抗菌薬種類の内訳など



自施設の立ち位置が確認可能

院内および地域のAMR情報を可視化し、院内および地域のAMR対策をサポートする

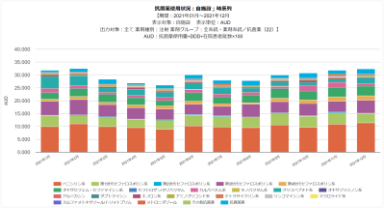
J-SIPHE
感染対策連携共通プラットフォーム

参加施設数：1706
（加算1: 833、加算2: 504、加算3: 344、なし: 25）

概要

・登録データを速やかに図表化し還元
・地域ネットワークによるAMR対策の推進にも利活用可能

抗菌薬使用量還元情報（時系列）



時間軸で自施設の状況を確認し、対策へつなげる
抗菌薬適正使用の質改善

抗菌薬使用量還元情報（他施設と比較）

他施設と自施設の状況を比較し、対策へつなげる

J-SIPHE(診療所/病院)の現在地

地域のAMR対策向上を目的

耐性菌/抗菌薬/診療プラクティスを
継続的に監視

↓イマココ

データを収集し見える化をしたが、
分析・解釈は各施設で実施

自施設/地域連携のサポートにて
フィードバックし
改善に役立てる